

生誕130年

福田平八郎と大分の日本画家たち

—首藤雨郊・高倉観崖・牧皎堂

江戸時代後期、現在の大大分県地域では田能村竹田など南画家の活躍が顕著にみられ、その傾向は明治時代になっても続きましたが、明治30年代以降になると、旧制大分中学に赴任した松本古村、大分県師範学校に赴任した藤原竹郷ら美術教師の影響によって、新しい日本画に取り組む画家たちが現れるようになりました。

首藤雨郊、高倉観崖、牧皎堂、福田平八郎は現在の大大分市出身で、大分県師範学校や旧制大分中学に学んだ後、いずれも京都市立美術工芸学校や京都市立絵画専門学校で学び、文展、帝展に入選しました。中でも福田平八郎は、1921(大正10)年、《鯉》が帝展特選となり、大正・昭和時代に日本を代表する画家の一人として活躍、1961(昭和36)年、文化勲章を受章し、大大分市名誉市民となりました。

た。大大分市出身者による近代日本画の展開は彼ら四人によって切り拓かれたといえるでしょう。また、首藤、高倉、牧はそれぞれ福田と縁があることで知られます。福田に1910(明治43)年、京都への進学を勧めたのが首藤雨郊であり、京都市立美術工芸学校へ紹介状を書いたのが高倉観崖でした。また福田が、京都を基盤に制作を続けた際、郷里大大分を支援する会「馬安会」が作られ、その会の主要メンバーの一人が牧皎堂でした。彼らは折にふれて交流を続け、合作等も遺しています。

本展では、生誕130年を迎える福田平八郎の作品・資料とともに近代日本画界で活躍した首藤雨郊、高倉観崖、牧皎堂の作品・資料を紹介し、大大分市出身者による日本画展開の一端を紹介します。



福田平八郎(1892-1974)
FUKUDA HEIHACHIRO
現大大分市生まれ
1918年 京都市立絵画専門学校卒業
1921年 第3回帝展《鯉》特選
1947年 帝国芸術院会員
1958年 日展常任理事
1961年 文化勲章受章



福田平八郎《鯉》1921年 宮内庁三の丸尚蔵館(前期展示)

第3回帝展特選の《鯉》 大大分で48年ぶりの公開



福田平八郎《花の習作》
1961年 京都国立近代美術館(後期展示)

平八郎



福田平八郎《新雪》
1948年 大分県立美術館(前期展示)



福田平八郎《清曇》
1935年 京都国立近代美術館(後期展示)



福田平八郎《青柿》1938年 京都市美術館(後期展示)



福田平八郎《南方の花と鳥》
1969年 大大分市美術館(全期間展示)



首藤雨郊(1883-1943)
SHUTO UKO
現大大分市生まれ
1905年 大分県師範学校卒業、教職に就く
1911年 教職を休職し
京都市立絵画専門学校で学ぶ
1924年 教職を辞して画業に専念
1925年 第6回帝展《冬の日の観山》
初入選、以後2回計3回入選

雨郊



首藤雨郊《冬の日の観山》1925年 大分県立美術館(全期間展示)



首藤雨郊《村の秋晴》1930年 大大分市美術館(全期間展示)



首藤雨郊《松溪眺泉》1934年 大分県立美術館(前期展示)



首藤雨郊《秋庭》1938年 大大分市美術館(全期間展示)



高倉観崖(1884-1957)
TAKAKURA KANGAI
現大大分市生まれ
1905年 京都市立美術工芸学校卒業
1914年 第8回文展《鴨川の春》入選
以後3回、計4回入選
1920年以降帝展への出品を一旦やめ、
各地で個展や画会を開催

観崖



高倉観崖《松下吟喏之図》
1923年 個人(全期間展示)



高倉観崖《寿家集鶴之図》
1938年 個人(前期展示)



高倉観崖《大塚川より望む雪の愛宕山》
1939年 大大分市美術館(前期展示)



高倉観崖《まがたま池の春》
1939年 個人(後期展示)



高倉観崖《春秋花鳥図》1940年代 個人(前期展示)

